

差別のない世界

小学校六年

五年生の時、僕はハンセン病について学びました。ハンセン病とは、手足などの運動まひや痛み、熱さを感ぜないなどの症状が現れる病気です。治療法が確立されており治る病気です。ところが、ハンセン病は恐ろしい伝染病と誤解され、患者さんやその家族は、多くの偏見や差別を受けてきました。

大島青松園へ行き、お話を聞かせていただく中で、どれだけひどい差別があったかを知りました。僕が心に残ったのは、ハンセン病と分かると、家族から引き離され、療養所での生活が始まり、二度と家族とは会えなくなるということです。そして、家中を真っ白になるまで消毒されたそうです。大島には納骨堂があり、なくなるそこに納められるそうです。それは、なくなってもなお、故郷に帰れなかったからだそうです。なんて悲しいことだと思いました。さらに、とてもショックだったのは、平成八年に「らい予防法」が廃止になったにもかかわらず、未だに差別が残っていることで

す。僕たちは、ハンセン病で差別を受けた人々の悲しみを忘れてはならないと思いました。正しい知識を伝え、二度とこんな悲しい差別を許してはいけないと思いました。そこで、参観日にハンセン病について正しい知識を伝え、差別をなくすために、大勢の人の前で発表を行いました。伝わってほしいと思い、一生懸命に発表しました。

人間は、なんで差別を生み出してしまうのでしょうか。少ない情報だけで、決めつけてしまうと差別が生まれてしまうのではないかと思います。だから、周りの人と差別について話し合ったり、自分の認識が正しいか考えたりしたいと思いました。正しい情報を収集して、差別を許さない強さや判断力をもちたいです。そして、偏見にしばらくられない想像力を持ち、相手の立場に立って考えたいです。自分も人も大切に、差別のない世界にしていきたいです。